

◆団体基本情報

No.	12	種別	一般財団法人	団体名	一般財団法人みやぎ産業交流センター		
所在地	〒983-0001 仙台市宮城野区港三丁目1番7号						
電話番号	022-254-7111		FAX番号	022-254-7110		所管部局	経済局 産業集積推進課
団体ホームページ	https://www.yumemesse.or.jp/						
代表者職氏名	理事長 千葉 隆政			設立年月日		平成6年8月1日	
基本財産等		1,779,000 千円		市の出捐額 (割合)		450,000 千円 (25.3 %)	
設立目的	国際見本市その他の見本市、展示会、会議、イベント、大会等の開催及び支援等に関する事業を行うことにより、宮城県の産業振興、地域経済の発展に寄与することを目的とする						
事業概要	・ 見本市、展示会、会議、イベント等の企画、誘致、開催及び協力 ・ みやぎ産業交流センターの指定管理事業 ・ その他						
評価対象決算期		令和6年4月1日～令和7年3月31日					

◆人員等の状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
①常勤役員数	2 人	2 人	2 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	0 人	0 人	0 人
②常勤役員平均年齢	61.5 歳	61.5 歳	62.5 歳
③常勤役員平均年間報酬	6,451 千円	7,215 千円	7,215 千円
④職員数	9 人	9 人	9 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	0 人	0 人	0 人
⑤職員平均年齢	45.3 歳	46.3 歳	47.3 歳
⑥職員平均年間給与	5,983 千円	5,931 千円	6,190 千円

◆主要財務データ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
①当期経常増減額	△ 72,020 千円	△ 5,722 千円	3,041 千円
②当期経常外増減額	0 千円	0 千円	120 千円
③当期一般正味財産増減額	△ 72,092 千円	△ 5,794 千円	3,088 千円
④一般正味財産期末残高	501,855 千円	496,061 千円	499,149 千円
⑤指定正味財産期末残高	1,779,000 千円	1,779,000 千円	1,779,000 千円
⑥正味財産期末残高	2,280,855 千円	2,275,061 千円	2,278,149 千円
⑦長期借入金残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆市の財政的関与

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
①市からの補助金	0 千円	0 千円	0 千円
②市からの委託料(指定管理料含む)	0 千円	0 千円	0 千円
③市に対する収入依存度	0.00 %	0.00 %	0.00 %
④市からの借入金	0 千円	0 千円	0 千円
⑤市からの債務保証に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円
⑥市からの損失補償に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和6年度事業費
施設管理運営事業	みやぎ産業交流センターの指定管理事業	359,755 千円
展示会開催事業	展示会の主催・共催・協賛等	16,280 千円
展示会出展支援事業	展示会への出展に係る助成金の交付	1,195 千円
展示会活用促進事業	展示会に関する講演会・セミナー等の開催	656 千円

◆経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管局によるコメント
1. 公益的使命・市が期待する役割への対応	施設利用状況は上向いてきており、収益改善が図られたが、大規模催事については、コロナ禍前までの水準には回復していない状況である。社会経済活動が堅調に推移し、様々なイベント活動等が回復してきている状況を踏まえ、今後も展示会等の開催・出展支援等の事業に取り組んでいくことにより、産業振興と交流人口の増加に寄与していく。	催事開催件数及び施設利用料収入とも増加しており、コロナ禍後においても社会的需要が大きいことを示している。利用者満足度の向上・市場ニーズの把握に向けた取り組みをより一層進め、事業目標値の達成を行っていただきたい。
2. 業務・組織管理	これまでの管理運営の経験や成果を事業に着実に反映させるとともに、コンソーシアム各社の協力を得ながら施設の利用促進を図った。	これまでの管理運営の経験を基に、より一層の効率的な組織運営をしていただくとともに、コンソーシアム各社の協力を得て施設の利用促進を図っていただきたい。
3. 財務状況	過去3期連続で赤字を計上したが、施設利用料収益の向上等により、今期は黒字であった。しかしながら、エネルギー費用をはじめとするあらゆる経費の上昇が続いており、経営の安定化に向け、施設利用料の改定など、抜本的な対策を検討する必要があるが出てきている。	催事開催件数及び施設利用料収入とも増加し、4年ぶりに単年度収支が黒字となった。昨今の物価高等の影響もあり、ますます経営は厳しくなると見込まれることから、今後も黒字化を継続できるよう、積極的な誘致活動を行っていただきたい。
4. 今後の方向性及び課題	引き続き財団設立の趣旨・目的の実現に向けて、事業の充実と堅実な財政運営に努め、公益目的支援事業を確実に実施していく。併せて、安定した運営への回復を図るべく、本館・西館の一体的管理運営により、収益性や効率性をより一層意識した運営に注力していく。	収益性の高い展示会の開催、支援事業に注力いただくと共に、効率的な事業運営にも尽力いただき、コロナ禍前同等の区画稼働率を目指すと共に、2期連続での単年度黒字会計を目指していただきたい。